



photo by Kirisame CC-BY-SA, from Wikimedia Commons

アカメガシワ（赤芽柏）

語源

学名 *Mallotus* : ギリシャ語の「mallotus=長軟毛がある」に由来し、果実に白色の長い腺毛が生えることから名付けられた。
japonicus : 「japonicus=日本の」という意味。

和名の「アカメガシワ」は、春に出る新芽や若葉が赤いこと、またカシワ（柏）のように葉が大きくなることに由来している。別名には「ゴサイバ（五菜葉）や「サイモリバ（菜盛葉）」があり、これはちょうどカシワと同じように、昔はアカメガシワの葉を食物の器に用いたことを表している。

基原

アカメガシワ *Mallotus japonicus*
 トウダイグサ科 落葉小高木

薬用部分

樹皮
 夏に採集し、水洗い後、刻んで日干しにする。

産地

国内では本州、四国、九州、沖縄の丘陵地に普通に見られ、生長が早く造成地や崩壊地で先駆植物となる。そのほか、朝鮮半島、台湾、中国南部にも分布する。



主な成分

苦味質(ベルゲニン bergenin、ルチン rutin)、タンニン(ゲラニイン geraniin)、マロツシン酸 mallotusinic acid、マロチン酸 mallotinic acid が含まれている。

主な薬効

消炎鎮痛薬として、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多、胆石症、腫れ物などに用いられる。

主な用途

家庭薬ではしばしば、アカメガシワエキスが胃酸過多や胃部不快感の治療薬に配合されている。そのほか痔や腫れ物には樹皮の煎液を内服したり、葉の煎液で洗ったりする。痔の痛みに生の葉の汁を患部に塗る療法もある。あせもの治療には葉を浴湯料として用いる。

また、古代から染色に用いられ、特に和紙には正倉院の比佐木紙（ひさぎがみ；ひさぎはアカメガシワの古名）が残っている。主に藍草で下染した上に葉と樹皮を用いて染め重ね、純黒色に染める。アルミ媒染で黄茶色、錫媒染で黄色、鉄媒染で紫黒色、銅媒染で焦茶色に染まる。種子は赤色染料となる。

文献報告

【抗胃潰瘍】

Bergeninに関する研究～Bergeninの抗胃潰瘍作用について～

日薬理誌, 1973, 69, 369-78

【抗ヘルペス】

Cytotoxic and antiherpetic activity of phloroglucinol derivatives from *Mallotus japonicus* (Euphorbiaceae)

Chem. Pharm. Bull, 1990, 38, 1624-6

【肝保護】

Effects of bergenin, the major constituent of *Mallotus japonicus* against D-galactosamine-induced hepatotoxicity in rats

Pharmacology. 2001;63(2):71-5

※参考文献：「日本薬局方」「生薬単」「日本薬草全書」「家庭の民間薬・漢方薬」「漢方のくすりの事典」「和漢薬の事典」「牧野和漢薬草大図鑑」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp

Power of Kanpou